

令和4年度「全国学力・学習状況調査」の結果 －分析から見てきた成果・課題と今後の取組について－

区 名	平野区
学 校 名	長原小学校
学校長名	市場 達朗

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和4年4月19日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数
- ・理科

(2) 質問紙調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・長原小学校では、第6学年 36名

令和4年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

- ・国語は平均正答率62％で、大阪市平均より約3％低い、平均無解答率は2.4％と大阪市平均より2.4％低い。平均無解答率の低さは基礎基本の定着に向けて、粘り強く取り組むことができてきたことの成果の表れと考える。引き続き、要旨をまとめたり、自分の考えを書いたりする力をつける必要がある。
- ・算数は平均正答率55％で大阪市平均より8％低い。また、平均無解答率は1.7％で大阪市平均より1.9％低く、基礎基本の定着に向けては、粘り強く取り組むことができてきた。
- ・理科は平均正答率57％で大阪市平均より3％高い。また、平均無解答率は2.3％で大阪市平均より1.8％低く、無解答0％の問題が半分以上あった。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕言語力や論理的思考を目指し、自分の考えを持ち、意見を述べる、書く、まとめる活動を継続して行った。また、習熟度別少人数学習やティームティーチングでの学習形態を維持し、漢字検定も行い、語彙の学習に力を入れている。平均正答率が大阪市平均を下回ったものの無解答率が低く、これまでの取り組みの成果が出ていると考える。基礎基本の定着に粘り強く取り組んでいく。

〔算数〕変化と関係の領域の設問の正答率が特に低い。また、記述式問題についても正答率が低く、今後も引き続き習熟度少人数学習やティームティーチングを継続して行い、自分の考えを伝え合う言語活動を算数科においても取り組み、引き続き図形等の意味を解釈して説明する力、論理的に記述する力を身に付けさせていきたい。

〔理科〕全ての平均正答率が大阪市平均より高い。基礎基本の定着に粘り強く取り組んだ成果がみられる。

質問紙調査より

「自分には、よいところがあると思いますか」では、大阪市平均より2倍高い値になっていたり、「将来の夢や目標を持っていますか」では、大阪市平均より26％高い値になっていたり、自己肯定感が高い児童が多い。また、「人が困っているときは、進んで助けていますか」では、大阪市平均より26.6％高い値となっていたり、「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」では、大阪市平均より14.4％高い値になっていたりして、自分も人も大切にできる子どもが育むことができています。

今後の取組(アクションプラン)

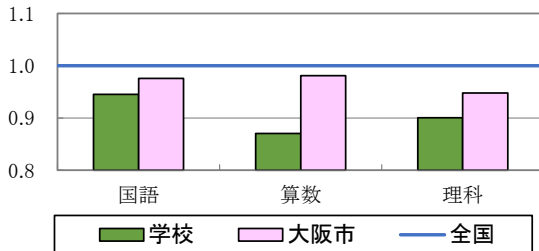
・「意欲的に算数科の学習に取り組む子どもを目指して」を研究主題に、基礎基本の定着を課題に取り組んでいる。ICT機器を活用した思考力・判断力・表現力の育成により一層取り組んでいく。習熟度別少人数学習やティームティーチングにおいても継続して計画的に行っていく。個別の支援においても、特別支援教育コーディネーターを中心に連携を図りながら取り組んでいく。縦割り班やクラブ活動、委員会活動などを活用し、成功体験をより多くさせ、達成感を味わわせる機会を作る取り組みを引き続き実施していく。

【 全体の概要 】

平均正答率（％）

	国語	算数	理科
学校	62.0	55.0	57.0
大阪市	64.0	62.0	60.0
全国	65.6	63.2	63.3

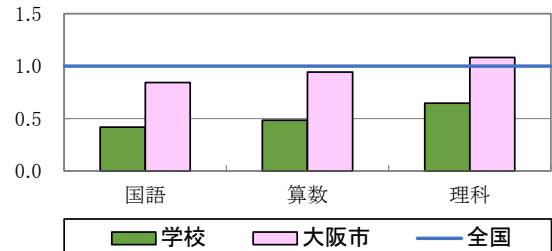
平均正答率（対全国比）



平均無解答率（％）

	国語	算数	理科
学校	2.4	1.7	2.3
大阪市	4.8	3.3	3.9
全国	5.7	3.5	3.6

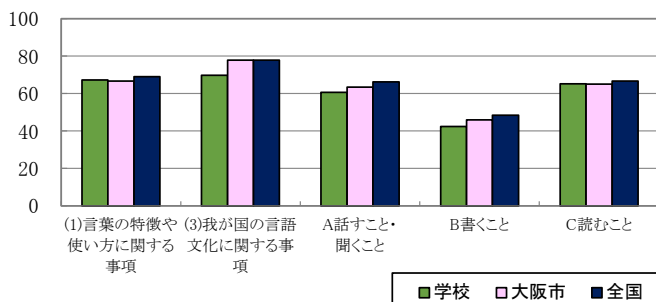
平均無解答率（対全国比）



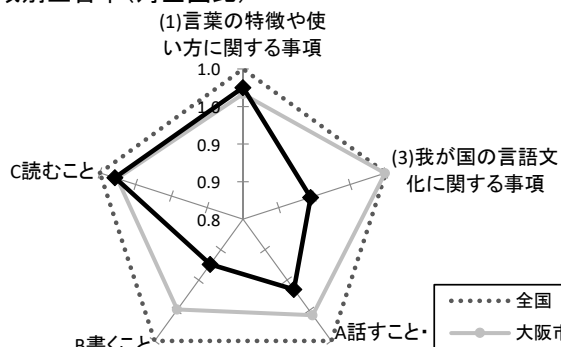
【 国 語 】

学習指導要領 の内容	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い 方に関する事項	5	67.3	66.7	69.0
(2)情報の扱い方に 関する事項	0			
(3)我が国の言語文 化に関する事項	1	69.7	77.8	77.9
A 話すこと・聞くこと	2	60.6	63.4	66.2
B 書くこと	2	42.4	46.0	48.5
C 読むこと	4	65.2	65.0	66.6

国語 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



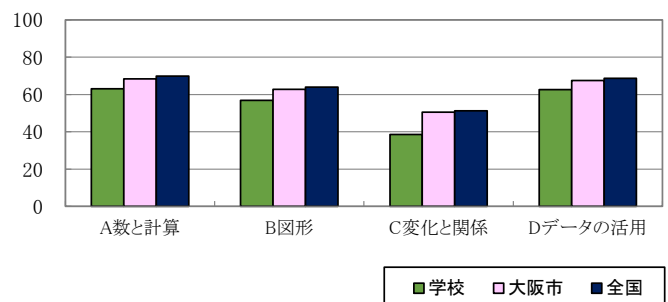
国語 領域別正答率(対全国比)



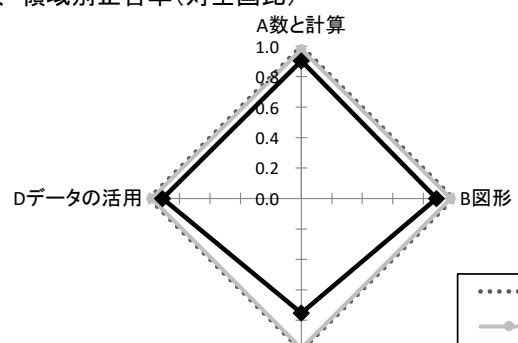
【 算 数 】

学習指導要領 の領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と計算	6	63.1	68.4	69.8
B 図形	4	56.8	62.8	64.0
C 測定	0			
C 変化と関係	4	38.6	50.5	51.3
D データの活用	3	62.6	67.5	68.7

算数 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



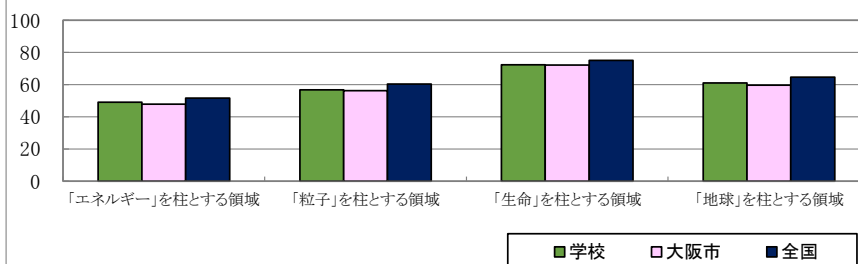
算数 領域別正答率(対全国比)



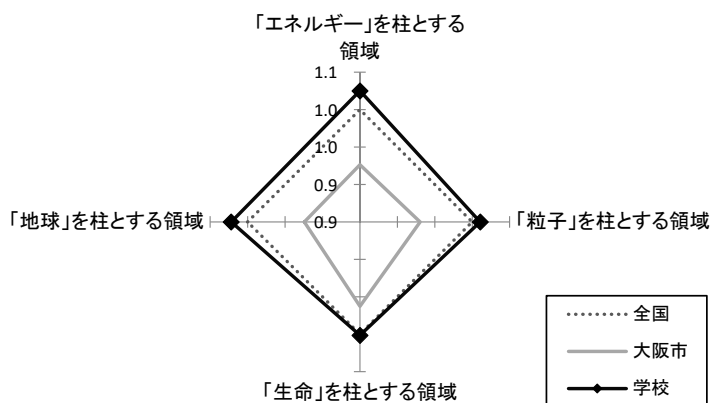
【 理科 】

学習指導要領 の区分・領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 区 分				
「エネルギー」を 柱とする領域	4	49.0	47.8	51.6
「粒子」を 柱とする領域	5	56.8	56.2	60.4
B 区 分				
「生命」を 柱とする領域	5	72.3	72.2	75.0
「地球」を 柱とする領域	5	61.0	59.7	64.6

理科 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



理科 領域別正答率(対全国比)



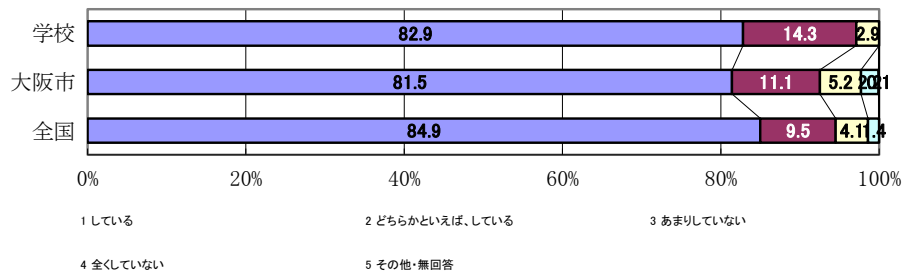
・「意欲的に算数科の学習に取

児童質問紙より

質問番号
質問事項

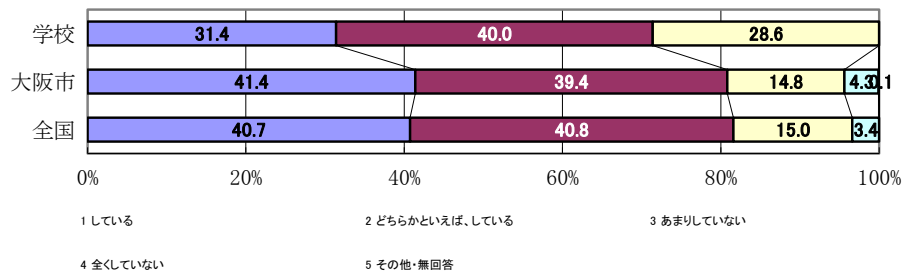
1

朝食を毎日食べていますか



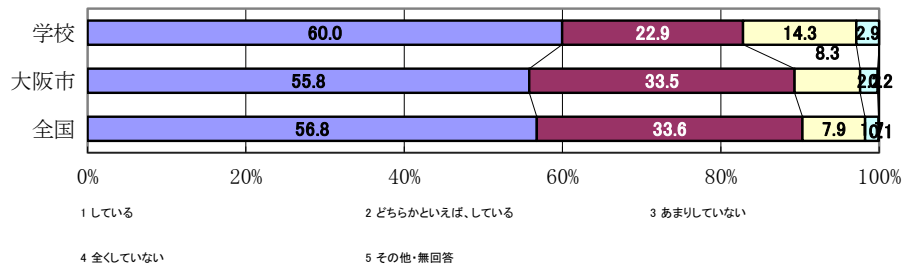
2

毎日、同じくらいの時刻に寝て
いますか



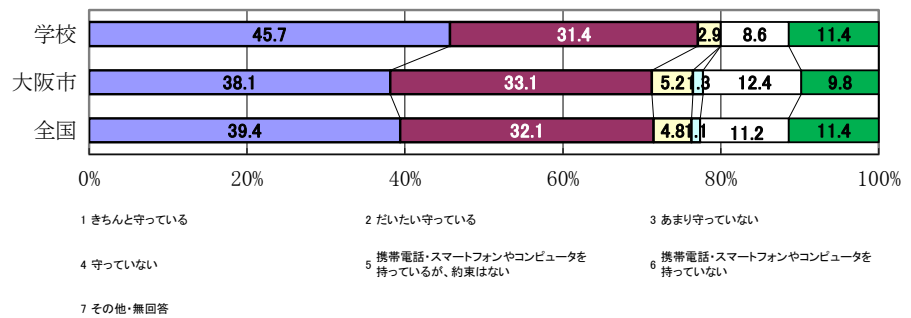
3

毎日、同じくらいの時刻に起き
ていますか



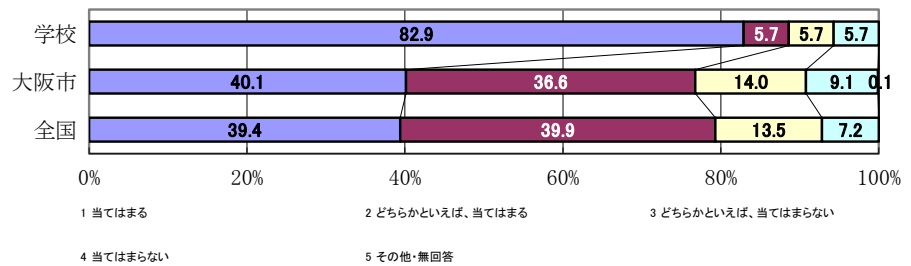
4

携帯電話・スマートフォンやコン
ピュータの使い方について、
家の人と約束したことを守って
いますか



7

自分には、よいところがあると思
いますか



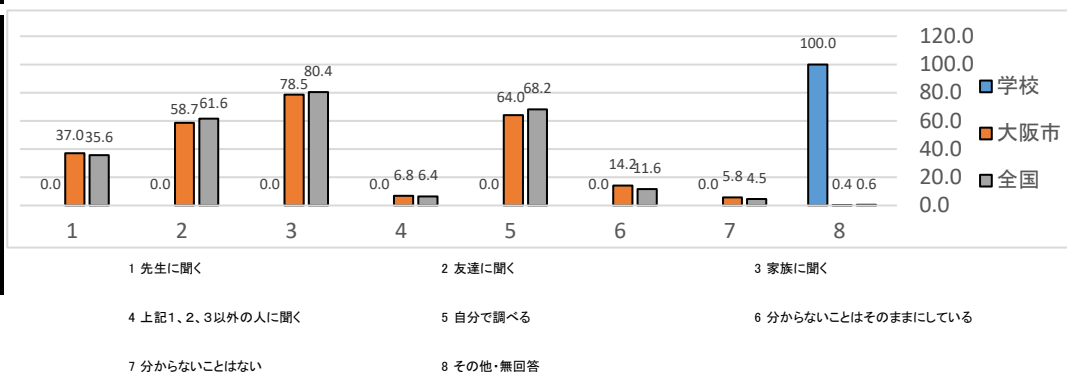
児童質問紙より

質問番号

質問事項

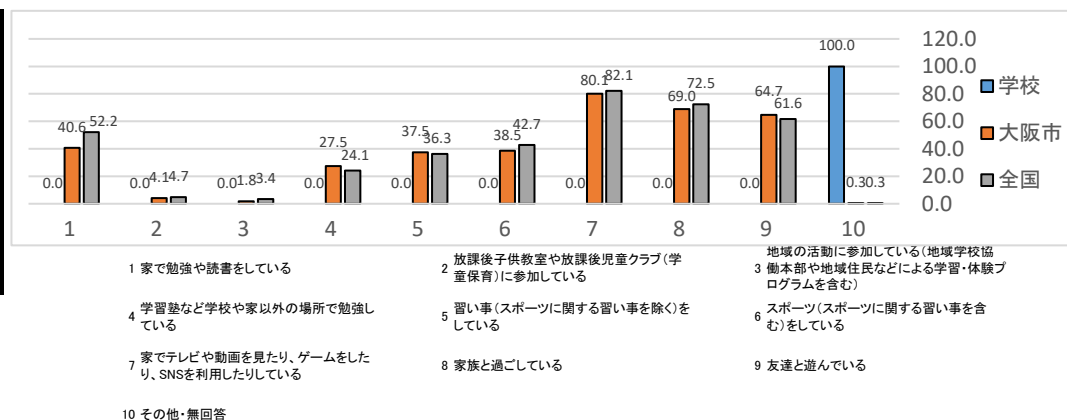
19

家で学校からの課題で分からないことがあったとき、どのようにしていますか(複数選択)



31

放課後や週末に何をして過ごすことが多いですか(複数選択)



学校質問紙より

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

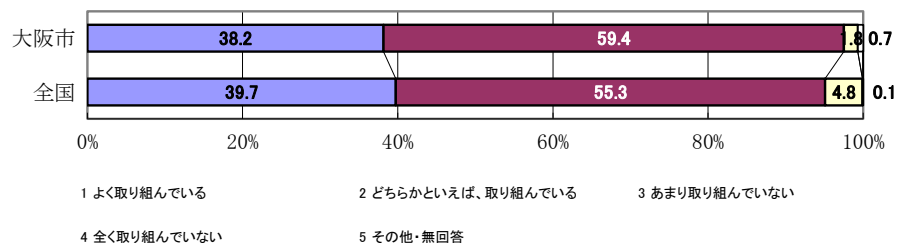
質問番号

質問事項

14

ICTを活用した校務の効率化（事務の軽減）に取り組んでいますか

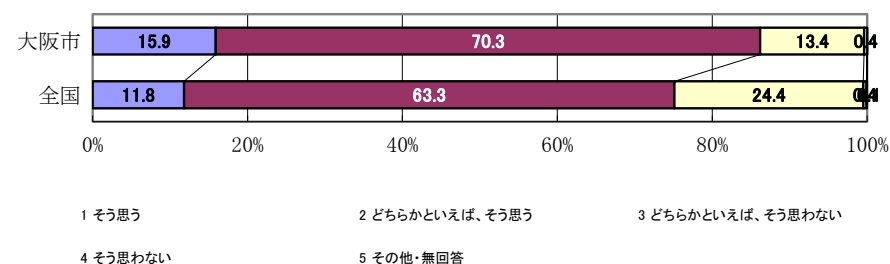
学校 「どちらかといえば、取り組んでいる」を選択



24

調査対象学年の児童は、授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができていると思いますか

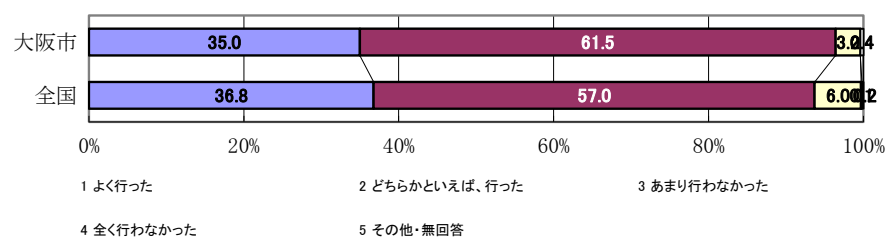
学校 「どちらかといえば、そう思う」を選択



52

調査対象学年の児童に対する理科の指導として、前年度までに、自ら考えた予想や仮説をもとに、観察、実験の計画を立てることができるような指導を行いましたか

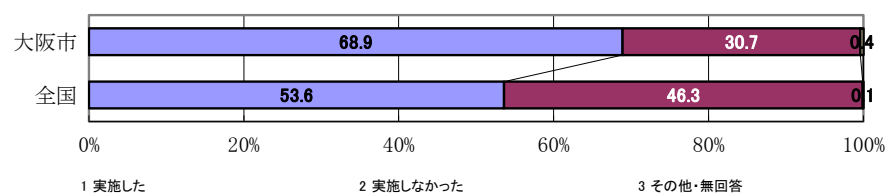
学校 「どちらかといえば、行った」を選択



55

調査対象学年の児童に対する理科の授業において、前年度に、教科担任制を実施していましたか

学校 「実施した」を選択



56

前年度に、教員が大型提示装置等（プロジェクター、電子黒板等）のICT機器を活用した授業を1クラス当たりどの程度行いましたか

学校 「ほぼ毎日」を選択

